



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLY BULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

行動に信念を
信念は行動に



佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日 (12:30~13:30)
 例会場 ホテル神宮寺 TEL 0985-73-0015
 事務所 〒 880-02 佐土原町大字下田島9883番地1
 TEL 0985-73-0015

BELIEVE IN WHAT YOU DO Do WHAT YOU BELIEVE IN

1996. 6. 3 (金) 第319回例会
 1. 点鐘
 2. 国歌斉唱
 3. ロータリーソング「奉仕の理想」
 4. 「四つのテスト」唱和
 5. 食事 (ロータリー広報番組試験)
 6. 会長の時間
 7. 幹事報告
 8. 各委員会報告
 9. 6月セレモニー (結婚記念日祝)
 10. 会員卓話 郡司 武俊君
 11. 点鐘

第318回例会記録
(1994. 5. 27)

会長の時間 正岡文郁

皆さん今日は、本日は第318回例会です。

『行動に信念を 信念は行動に』のR1テーマの下にクラブ活動を展開してきました今年度も、残すところ1か月となりました。例会数では本日を除いてあと4回しかありません。

昔から、「終りあければすべて良し」と言われておりますが、お互いしっかりとこれから1か月を、佐土原ロータリークラブ充実のために頑張って行きたいと思います。

去る5月21日~22日に鹿児島市で地区協議会が開催され、当クラブから10名の方が出席して熱心に研修をしていただき、誠に有り難うございました。後ほど、部門別協議会にご出会の方々からご報告があると存じます。

さて、ここでまた嬉しいお知らせをさせていただきます。

それは、お二人の方が当クラブへのご入会を表明されたことです。会員増強委員長からご報告していただきますが、お一人は来月の3日から、もう一人の方は17日から正式にご入会していただく運びになっております。

これまで本年度がスタートしてから9名の会員増となり、当初の目標の25名に達したわけあります。これも皆さんのご協力のおかげであると深く感謝申し上げます。

来年度はさらに5名の会員を増強し、待望の30名突破を目標に頑張って行こうではありませんか。

幹事報告 代理 次年度幹事 藤堂孝一

1. 例会変更通知

*日向東RC 5月31日を28日に変更 (はまぐり荘)

*宮崎西RC 6月3日 18:00~

出席報告 委員長 神宮寺 利夫

会員数	23名
欠席者数	5名
H.C出席者数	18名
メークアップ者数	3名
出席率	91.3%
欠席者名	齊藤・井下

ビジター
西都RC 尾崎公男君
" 長友正三君

事務局 〒880-03 宮崎県宮崎郡佐土原町大字東上那阿17588-10 (有)池田印刷所内 ☎ 0985-74-0130

会長 正岡文郁、副会長 堀玉武文、幹事 池田仁志、会計 柳田光喜、会報責任者 亜木勝雄

新会員卓話 德丸章一

私は現在の佐土原町上田島地区に生まれ、育ちました。小学校時代を回顧してみると、旧佐土原町は農家が5割、商家が4割、いわゆるサラリーマン家庭が1割であったようです。私の家も自転車と電気器具の店でした。当時は町が旧佐土原藩十ヶ町村の経済の中心で、今よりも活気がありました。また、芸者も多く、歓楽街でも県内に広く知られていました。銭湯が3軒もあり、毎日午後3時頃になると、浴衣姿のなまめかしい綺麗な芸者さんたちが、カラコロと下駄の音を響かせながら銭湯へ向かうのが見られたものです。（ああ何とのどかな良き時代であったことでしょう）

その後太平洋戦争が激化し、流通の統制は厳しくなり、物は少なくなるはて、私は親父の商売を繼ぐのを断念し、時代の変転と共に、サラリーマンに転向することにしました。そして、昭和27年から現在の九州電力に勤めるようになりました。

従って本日は『電気』についての話をさせていただきます。電気は一体どうしてつくられるのか復習してみましょう。手近な例では自転車の発電ランプがあります。これは、皆さんの足の力で発電機の中の磁石を回し、外側に巻いてあるコイルに電気を発生させて（電磁誘導作用）ランプが点灯するのです。大きな発電所も原理は同じです。磁石を何の力（エネルギー）で回転させるかが違うだけです。

高所の水の位置のエネルギーを利用して回するのが水力発電、石炭・石油などの燃焼による熱エネルギーで蒸気タービン（その端に大きな磁石が取り付けてある）を回すのが火力発電、原子核分裂の熱エネルギーを利用して（火力発電と同様に）回すのが原子力発電です。その他ご存知のように、地熱発電、風力発電もあります。

現在の国内所要電気量の1割を水力発電、5割を火力発電、残りの4割を原子力発電でまかなっています。皆さんご日頃使っておられます電気の大半は、鹿児島県の川内原子力発電所から送電されるものであると考えていただいてよいと思います。数年前までは県内の水力発電

だけで需要を充たし、余分は県外に送電していましたのですが、今は逆で、不足分を鹿児島県から送電してもらっています。

話が戻りますが、旧佐土原町の東春田地区に変電所があって、広瀬・妻・三財・三納・新田の一部及び住吉の一部までの電気需要を充たしていました。経済面だけでなく電気でも、旧佐土原町は周辺十ヶ町村の中心的存在であったのです。その後電気需要量が急速に増えましたので、西都市、広瀬地区にも変電所が設置されました。

電気の使用状況は、一日中では昼間が深夜から早朝6時までの2倍、年間では7月～8月が最も多く、冬季はその半分しか使われていません。

それでは、必要量だけを調整送電すればよいのではないか、ということになりますが、残念ながら電気は貯蔵できません。電気はつくると直ぐに消費しなければならないのです。しかも、最大需要量にいつでも対応できる発電量を整えて置く必要があります。これが電気事業のむずかしいところです。九電では、深夜電気料を定額の3分の1にした電気温水器の普及に力を入れております。

今一番問題になっているのは「人間による地球環境破壊」です。エネルギー源として石油や石炭をどんどん燃やすため、炭酸ガスなどを発生し、“地球の温暖化”、“酸性雨”現象を惹起しています。それで世界各国では炭酸ガスの発生を減らす運動が始まっています。わが国でも、火力発電を減らすことを検討しつつありますが、それに代わるものとしては原子力発電しかありません。将来は、クリーンエネルギーとして太陽光発電が実現すると考えられますが、今のところでは一般家庭にその設備を取り付けるのに600万円かかるそうです。それと、中国が経済発展をするにつれ、石油・石炭を多量にエネルギーとして燃やすことが予想されますが、その時に発生した硫黄や窒素の酸化物が、偏西風に乗ってまともにわが国に飛来することが憂慮されます。日本としては、有害ガス発生防止設備の技術協力を積極的に行うべきでしょう。